



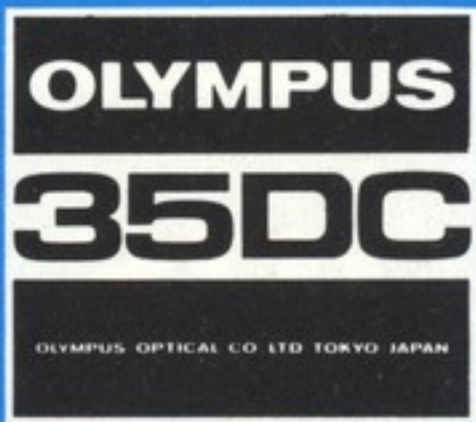
**OLYMPUS**  
**35DC**

バッテリーチェッカー付

with **F. ZUIKO F1.7 f=40<sup>m</sup>/<sub>m</sub>**

●使用説明書●





バッテリーチェッカー付

35DC (バッテリーチェッカー付) は、大口径レンズ付では世界最小のコンパクト35ミリカメラです。新設計の明るくシャープなF1.7ズイコーの特性を生かし、広範囲な完全EEが可能です。大きな特色は、フラッシュ撮影はもちろん、逆光撮影や日中シンクロ撮影もワンタッチでできる使い易さにあります。傑作を写すにはまずカメラをよく知ることが先決です。撮影に入る前にこの説明書をよく読み早く自分のものにしてください。

### 〈使いかたダイジェスト〉

#### 1 フィルムを入れます。

空写しの際にレリーズボタンが押せなかったら、バッテリーチェッカーボタン (ロックフリーボタン兼用) を押しながらシャッターを切ってください。

#### 2 フィルム感度を合わせます。

距離環を0.85mに合わせてから、フィルム感度セット環を回して合わせてください。

#### 3 シンクロ接点とガイドナンバーをセットします。

あらかじめ使用するフラッシュ装置に合わせてセットしておく便利です。

#### 4 ピントを合わせます。

ファインダー内の二重像を合致させます。

#### 5 シャッターを切ります。

- a) EE撮影——レリーズボタンを押すだけでOK /
- b) 逆光撮影——BLCボタンを押しながらレリーズボタンを押します。
- c) フラッシュ撮影——フラッシュ装置を取付けて、EE撮影と同じようにレリーズボタンを押すだけです。
- d) 日中シンクロ撮影——c)と同じ。
- e) セルフタイマー撮影——a)、c)、d)の場合にセルフタイマーレバーをセットしてからレリーズボタンを押します。



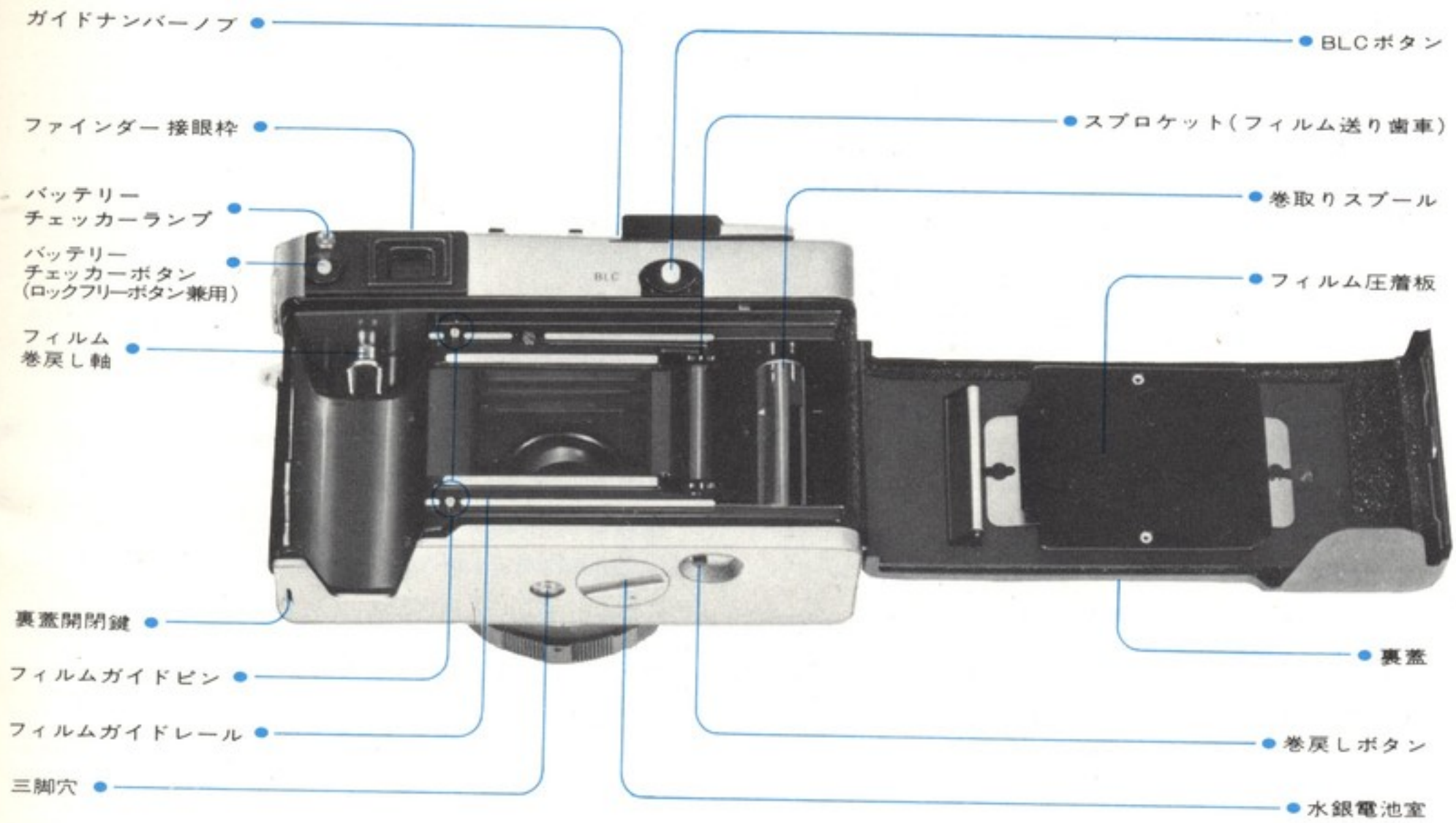
## 《目次》

- |                    |    |               |    |
|--------------------|----|---------------|----|
| ●使いかたダイジェスト        | 1  | ●構図とピント       | 18 |
| ●各部の名称             | 3  | ●カメラの構えかた     | 19 |
| ●おもな性能             | 5  | ●セルフタイマーの使いかた | 20 |
| ●水銀電池室／バッテリーのチェック  | 6  | ●フラッシュ撮影のしかた  | 21 |
| ●撮影の基本手順           | 7  | ●特殊な条件での撮影    | 23 |
| ●フィルムの入れかた         | 11 | ●フィルムの巻戻しかた   | 25 |
| ●フィルム感度セット環        | 15 | ●カメラ保管上のご注意   | 26 |
| ●フィルム巻上レバー／フィルム駒数計 | 16 | ●アクセサリ        | 27 |
| ●ファインダー            | 17 | ●オリンパス製品紹介    | 29 |



## ●各部の名称





## ●おもな性能

画面サイズ：24×36mm (35ミリサイズ)

レンズ：F.ズイコーF1.7 f=40mm (4群6枚)

シャッター：セイコープログラムシャッター

シンクロ：エレクトロフラッシュ接点とバルブフラッシュ接点の手動切換式

ガイドナンバー目盛：10-40(m)、32-130(ft) フラッシュマチックシステム

ファインダー：ブライツフレームファインダー0.6倍、バララックス(視差)補正マーク(1m)付、シャッタースピード目盛・絞り目盛表示、露出不足時警告赤ゾーン付

フィルム装填：ELシステム(イージー・ローディング)、バッテリーチェッカーボタンによりロックフリー

フィルム巻上：レバー式ワンストローク巻上、予備引出角35°・巻上角135°、小きざみ巻上可能、セルフコッキング、二重巻上防止、二重露出防止

フィルム駒数計：順算式、自動復元

フィルム巻戻し：クランク式、巻戻しボタンセット式

ピント調節：二重像合致式一眼連動距離計、直進ヘリコイド方式、距離目盛0.85m(2.8ft)～∞

露出調節：露出計による完全自動調節(EE)、逆光補正用BLCボタン付(+1.5EV)

フラッシュ調節：アクセサリースューにフラッシュ装置を取付けることによりフラッシュマチックシステムに自動切換、日中シンクロ可能

受光部：ポイントアイ、CdS使用

電源：水銀電池(JIS-H-D型またはHS-D型)1.3V 1個使用、バッテリーチェッカー付(ロックフリーボタン兼用)

EE可能範囲：EV5.5(F1.7・ $\frac{1}{15}$ 秒)～EV17(F16・ $\frac{1}{500}$ 秒)、露出不足時リリースロック付

フィルム感度目盛：ASA25～800、DIN15～30

セルフタイマー：レバー式(90°)、約10秒

裏蓋開閉：蝶番式

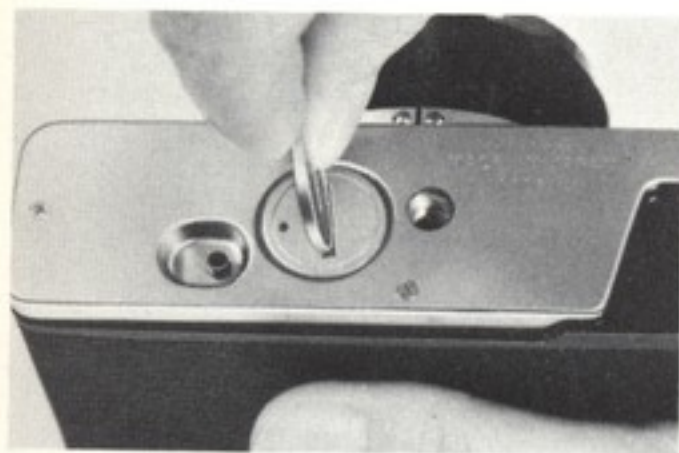
アクセサリースュー：コードレス接点付

フィルター径：49mmねじ込み式

大きさ・重量：114(巾)×71(高)×57(厚)mm、490g



## ●水銀電池室



水銀電池はカメラの露出計を働かせる重要な電源です。カメラ底部にある水銀電池室に正しく入れてください。

1. 水銀電池室の溝にコインをあてがい、左（反時計方向）に回すとはずれます。
2. 水銀電池（JIS・H-D型またはHS-D型1.3V）1個を、写真のように（+）文字の書いてある方が外側になるように入れて、蓋を元通りしっかりねじ込んでください。

### 〈注意事項〉

- 電池を入れるときには電池の表面を乾燥した清潔な布でよくふいてから入れてください。
- 水銀電池は、寿命が切れると性能が一時に落ち、露出計が正しく働かなくなります。おでかけ前や撮影前に一度バッテリーチェッカーで確かめてください。
- 一般に寿命は、普通に使っていれば1年位、特に使用回数の多い場合は半年位です。その時期がきたら新しい電池と交換するよう心掛けてください。また長期間使用しないときは、電池をカメラから取りだして保管してください。
- 使用できる水銀電池は、H-D型またはHS-D型1.3Vです。市販価格100円です。
- われわれの周囲から水銀汚染をなくすため、水銀電池を取換えるときは、使用済の水銀電池をカメラ店もしくは水銀電池販売店に持参し、現品と引換えに新しいものをお求めください。

## ●バッテリーのチェック

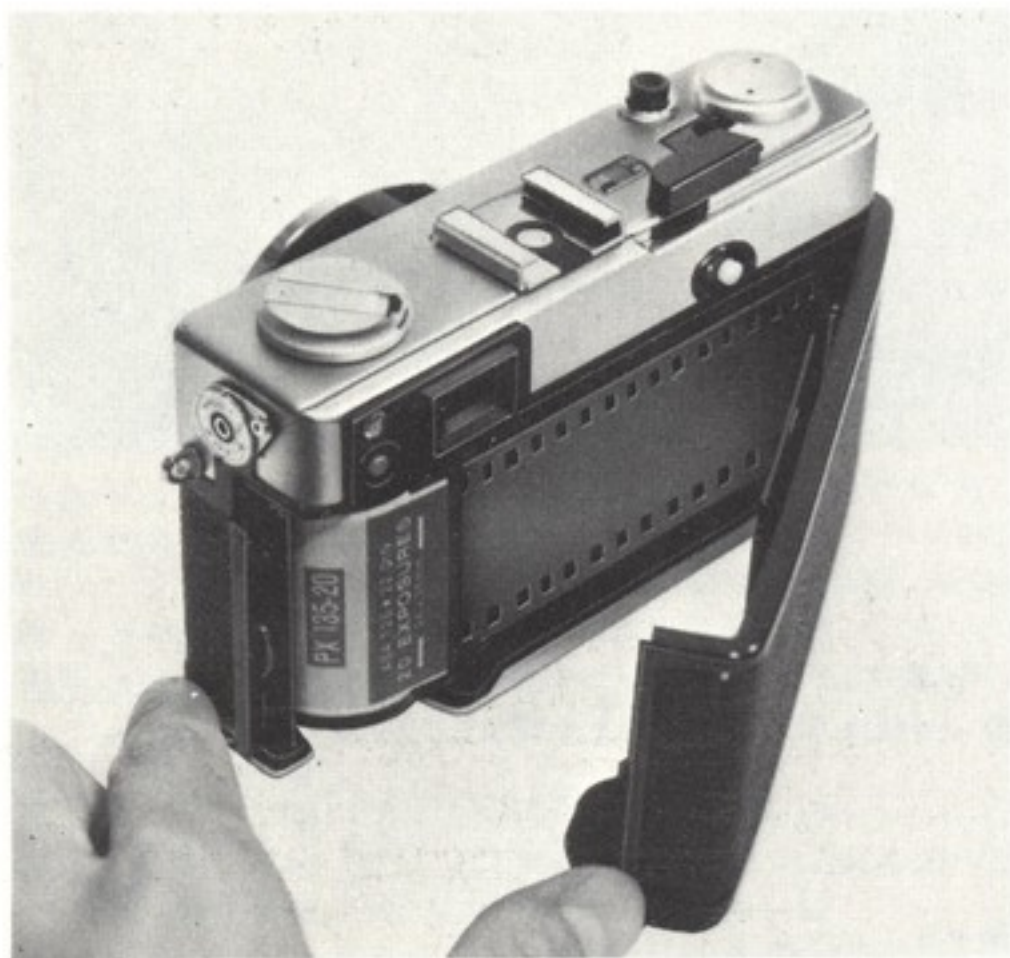


カメラ背面のバッテリーチェッカーボタンを押し黄橙色ランプの点灯を確認します。

ランプが点灯しないか、押しはじめだけ点灯し除々に消える場合は新しい電池と交換してください。

●極低温（ $-20^{\circ}\text{C}$ ）になるとランプは点灯しない場合があります。しかし露出計は正常に作動します。

● 撮影の基本手順



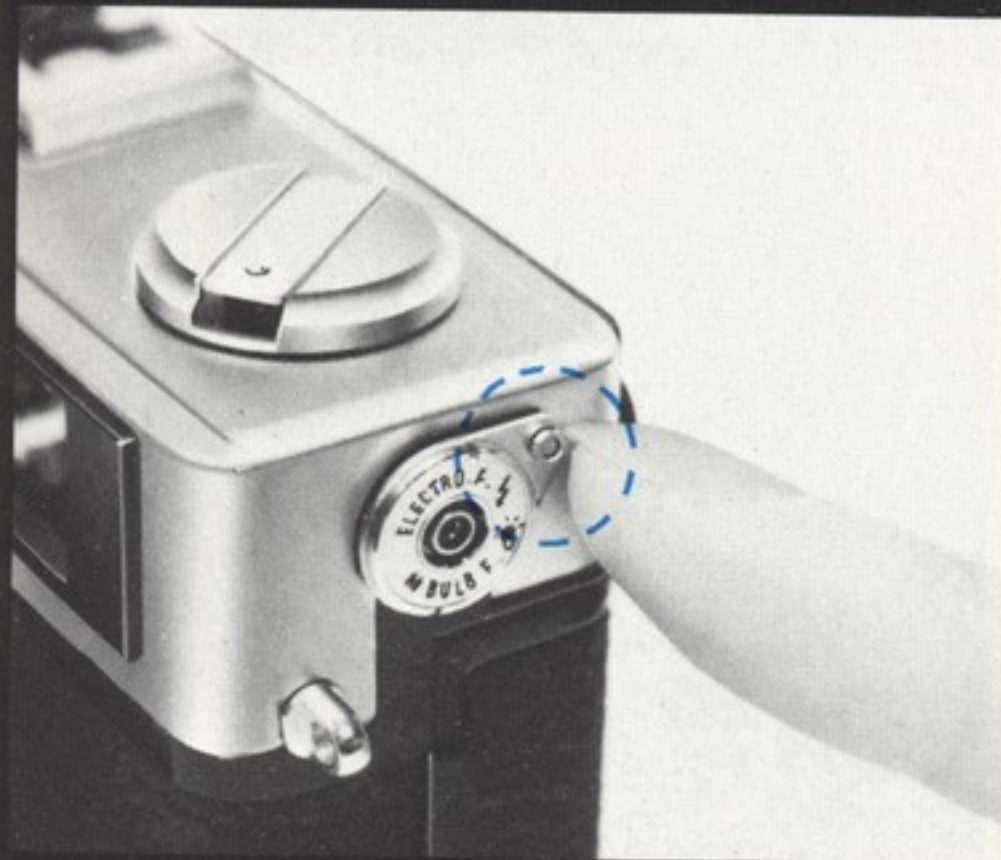
1 フィルムを入れます。(11頁参照)



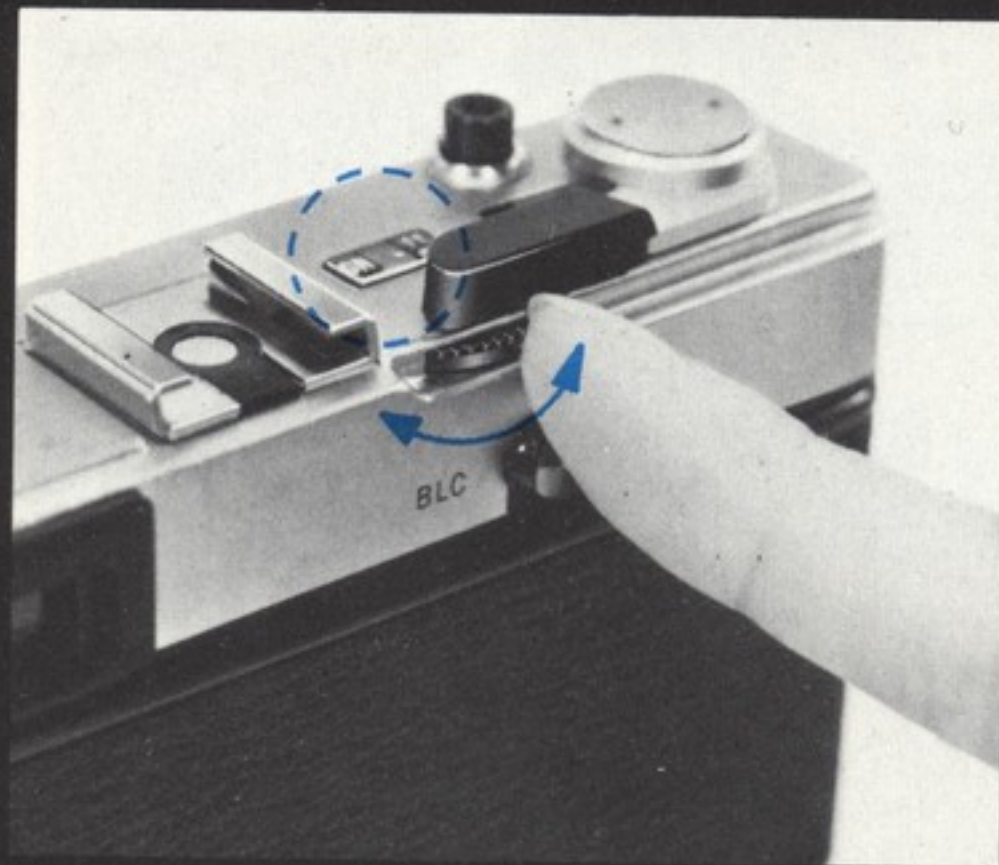
2 フィルム感度をセットします。(15頁参照)  
※距離環を0.85 mに合わせておいてから行います。



▶ すぐフラッシュ撮影ができる準備をあらかじめしておきましょう (21頁参照)

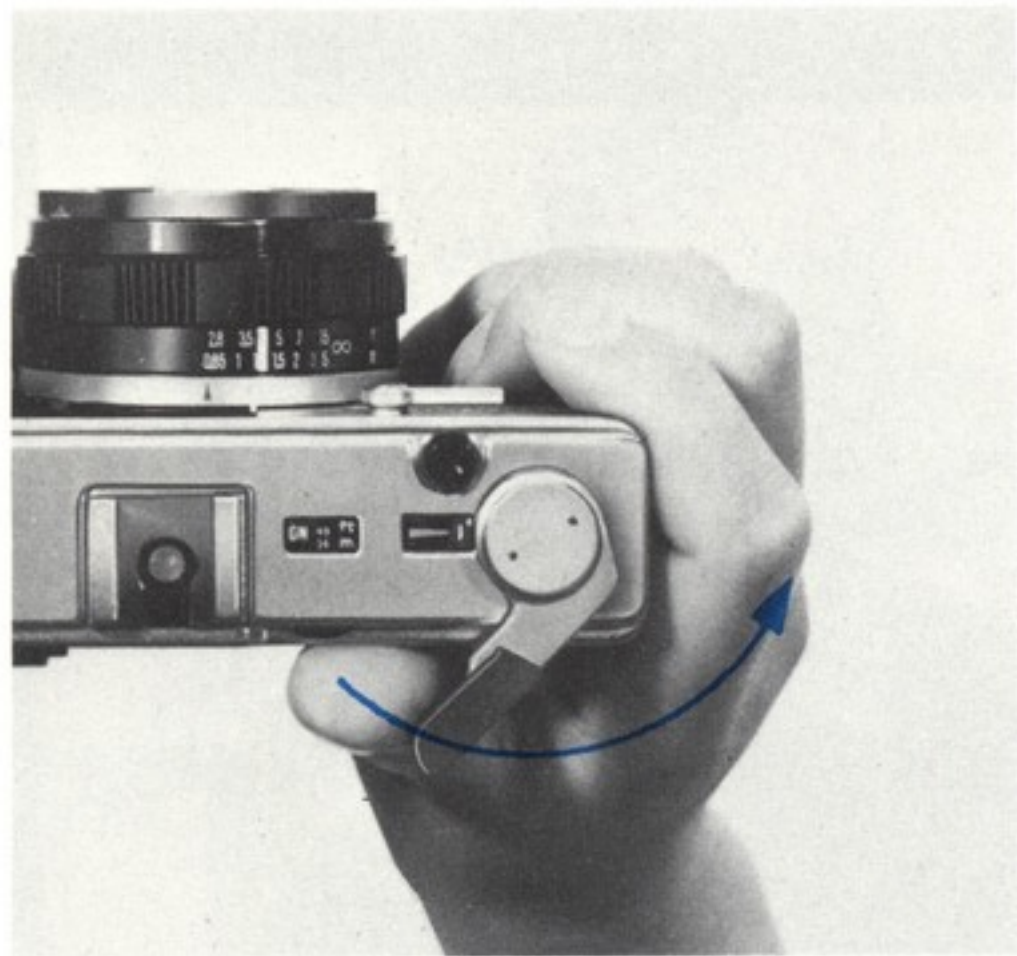


(1) シンクロ接点を決めます。

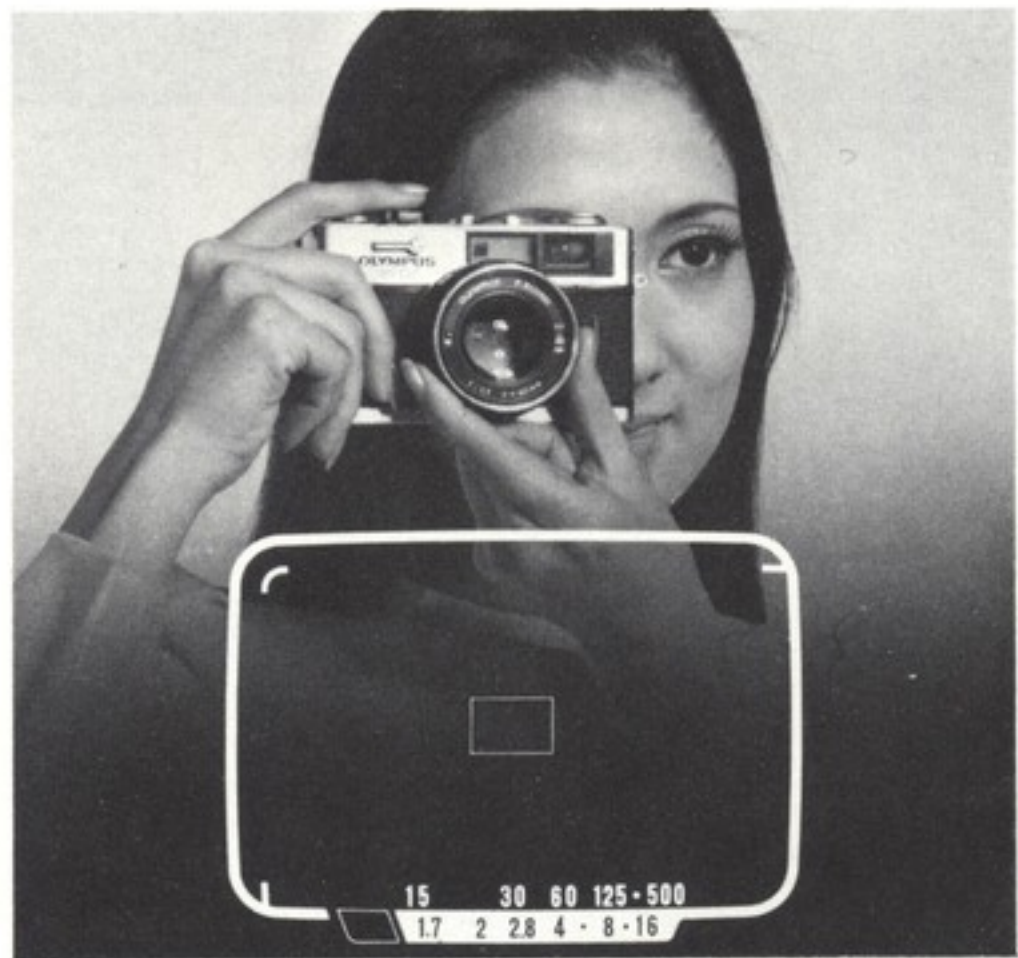


(2) ガイドナンバーを合わせます。

- フラッシュ撮影をまったくしない場合、ガイドナンバーはどこに合っても構いません。
- フラッシュ装置をアクセサリースューに差込むだけで、自動的にフラッシュ撮影に切り替ります。



**3** フィルムを巻上げます。(16頁参照)

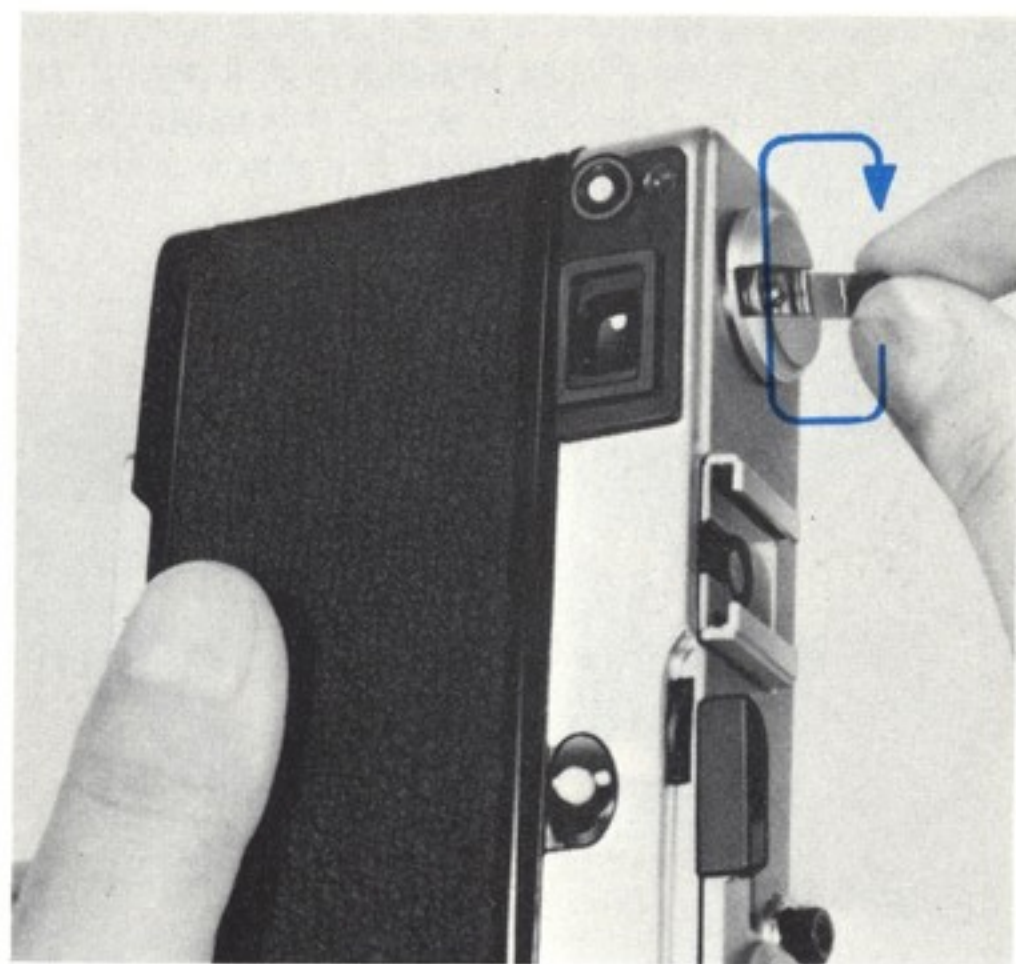


**4** 構図を決めて、ピントを合わせます。(18頁参照)





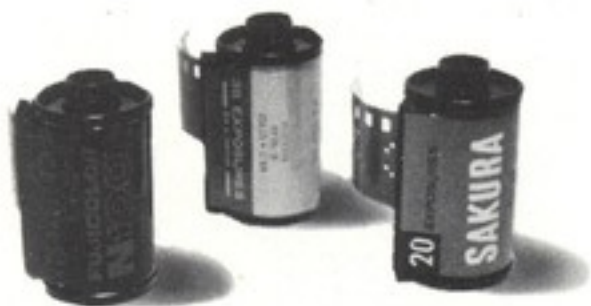
**5** カメラをしっかり構え、レリーズボタンを静かに押します。(19頁参照)



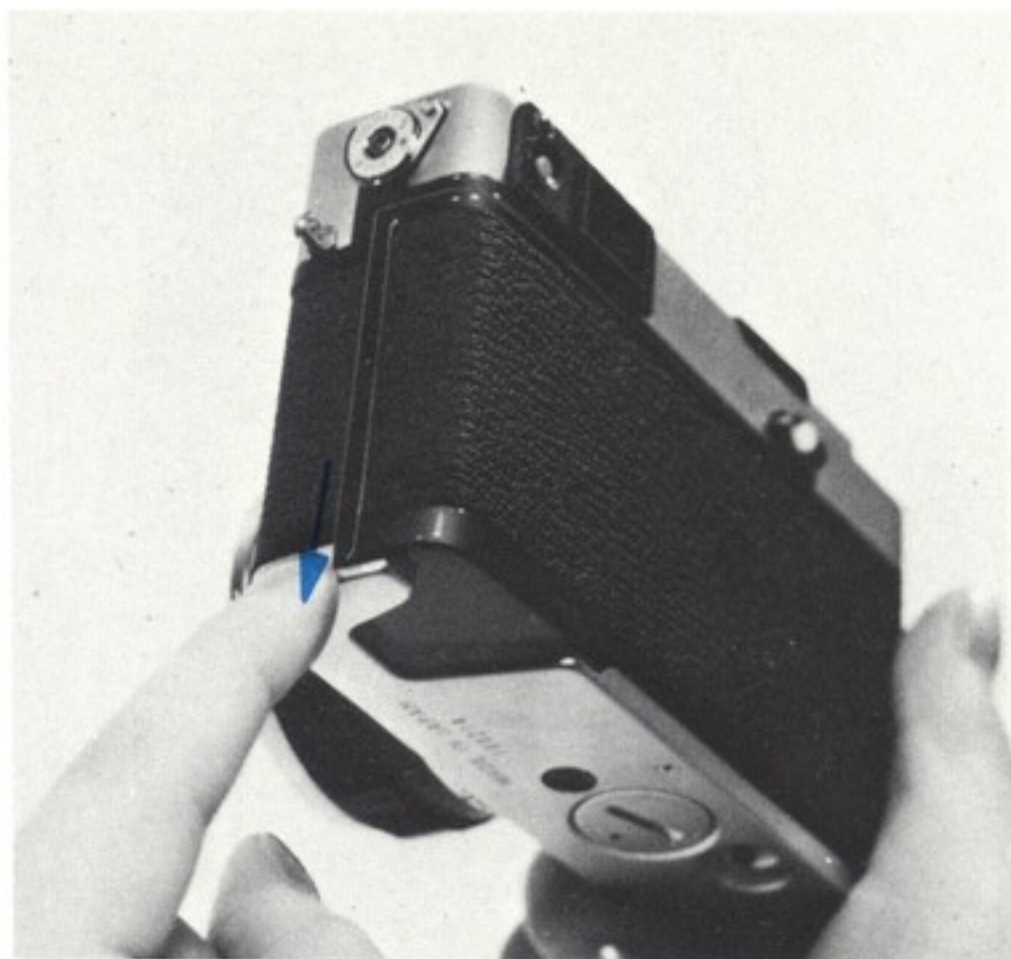
**6** フィルム全部の撮影が終わったら、フィルムを巻戻します。(25頁参照)

## ● フィルムの入れかた

フィルムは、一般のバトローネ入り35ミリフィルム（12枚／20枚／36枚どりの3種類ある）を使います。フィルムは、イージー・ローディングの採用により、確実にしかも簡単に入れられます。巻取りスプールの溝（5つありますが差込みやすい所ならどこでも結構です）に、フィルムの先端を差込むだけ。もうフィルムの先がはずれるといった失敗はありません。



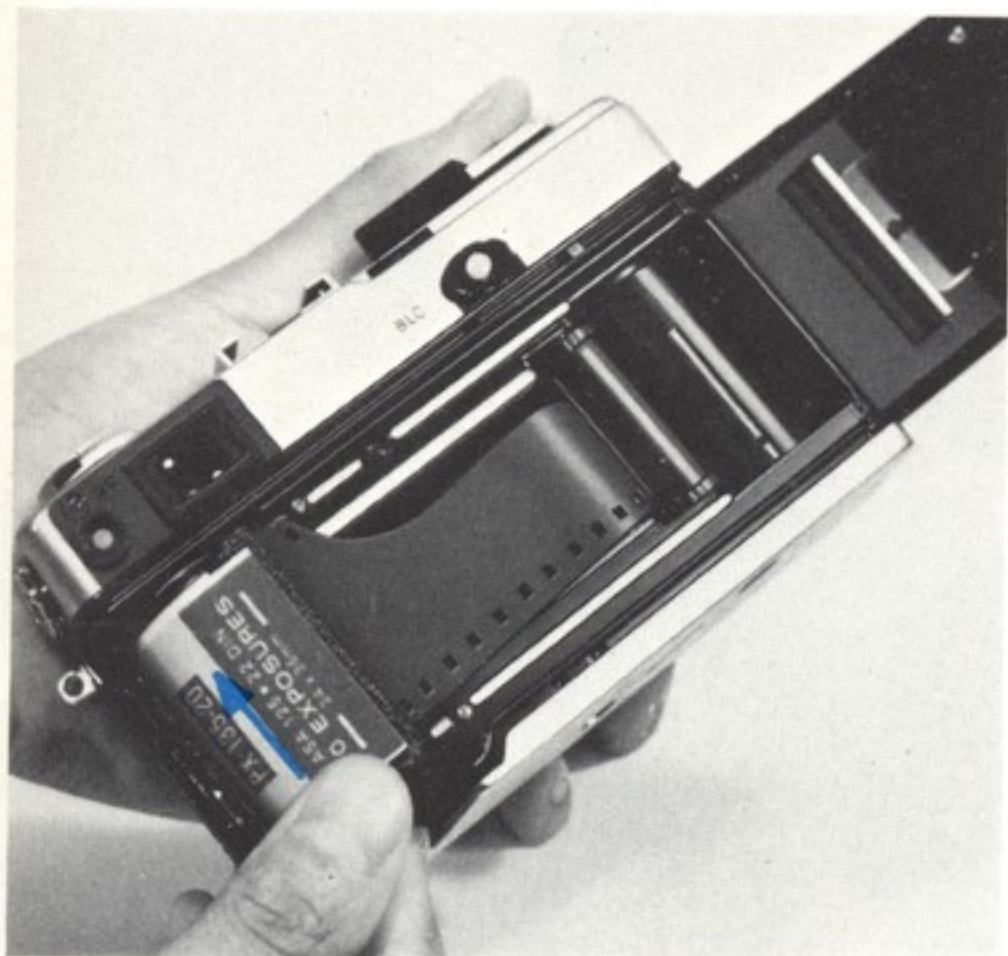
フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行うようにしてください。



### 1 裏蓋をあけます。

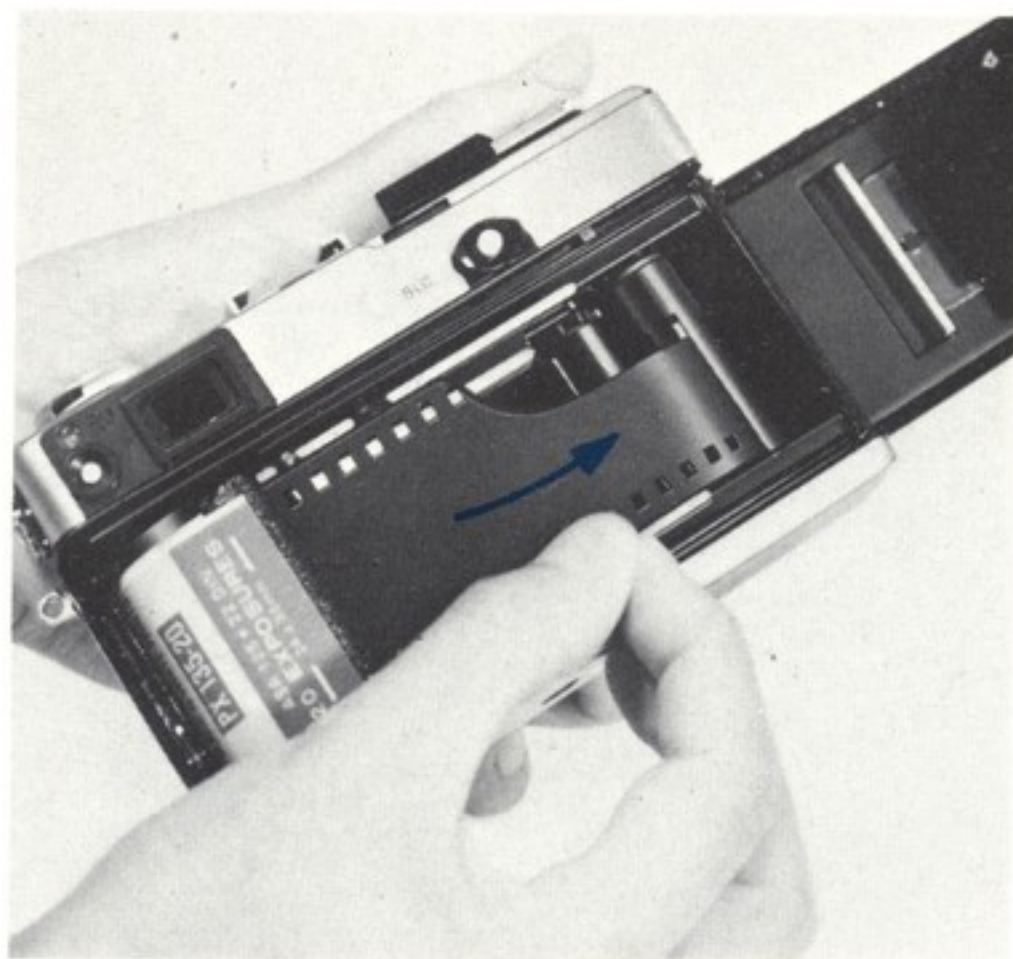
カメラの横にある裏蓋開閉鍵を下に引くと、裏蓋が自動的にあきます。





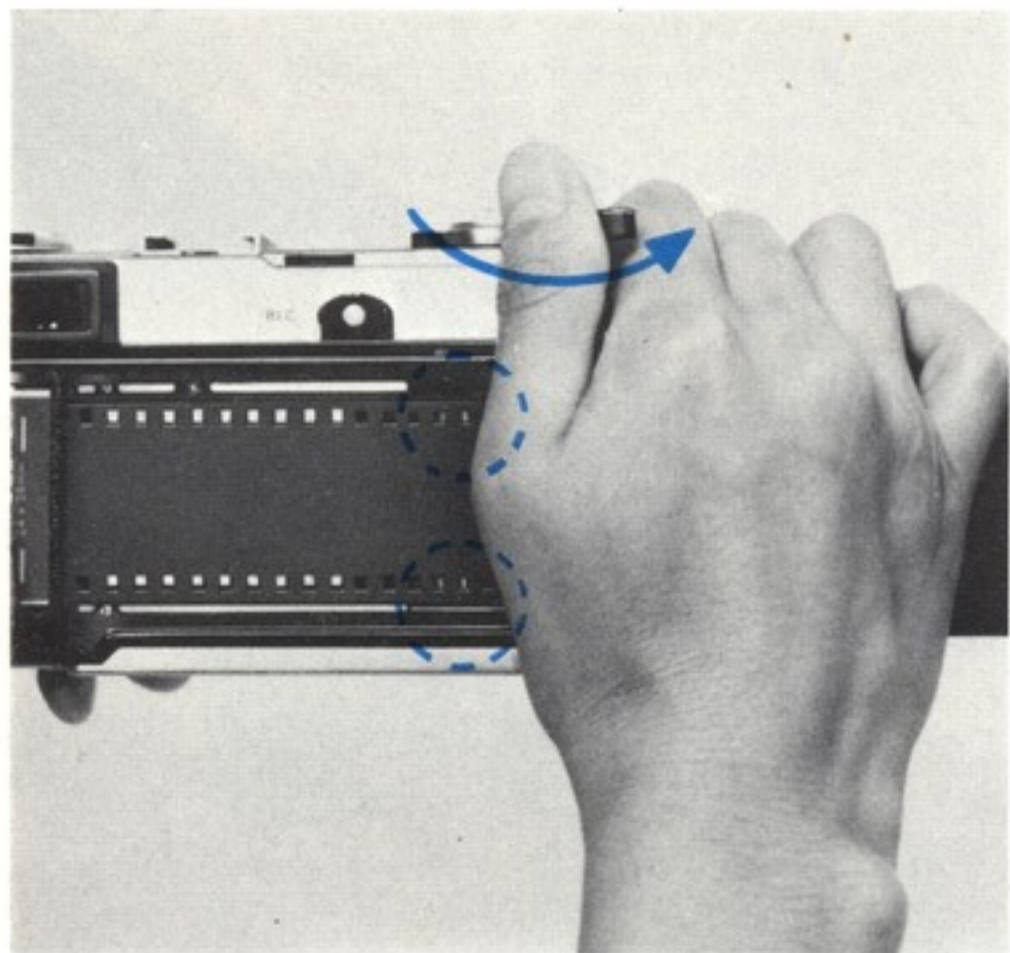
## 2 フィルムを入れます。

フィルムパトローネをフィルム室に納めます。パトローネがフィルム室にすっぽり納まらないときは、巻戻しノブを左右に少し回しながらパトローネを押し込むと、楽にカチリと入ります。



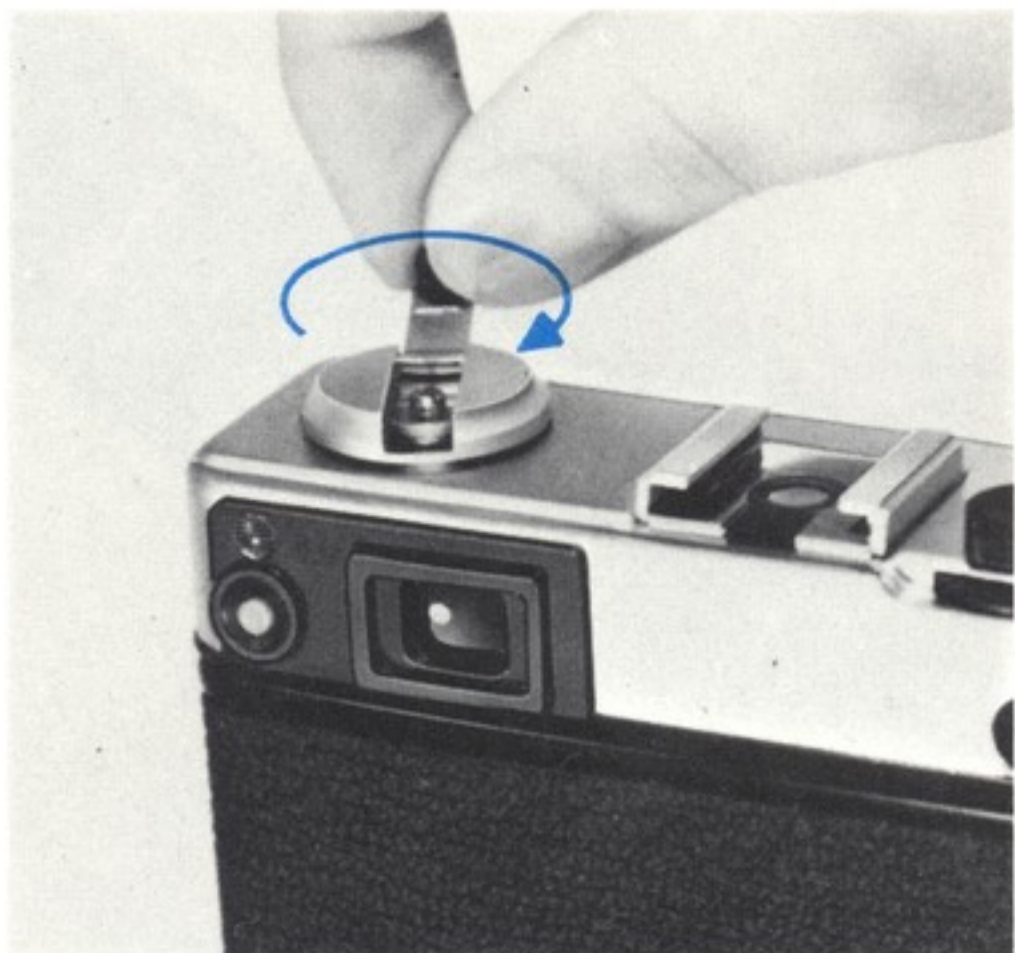
## 3 フィルムの先を差込みます。

右手でフィルムの先を持って少し引出し、その先端を巻取りスプールの溝の回転方向に差込みます。このときフィルムが傾かずガイドレールの上に正しく納まるようにします。



#### 4 フィルムを巻上げます。

次に巻上レバーでフィルムを巻上げ、パーフォレーション(穴)をスプロケットの歯車にかみ合わせ、確実に巻取ります。



#### 5 裏蓋を閉じて、フィルムのたるみをとります。

フィルムが外側のガイドレールの上に正しく入り、パーフォレーションがスプロケットの歯にしっかりかかっていることを確認してから、裏蓋を静かに押していくとカチリと閉じます。ここで念のために巻戻しクランクを起し、ノブが重く感じるまで軽く矢印の方向に回して、フィルムのたるみをとっておきます。

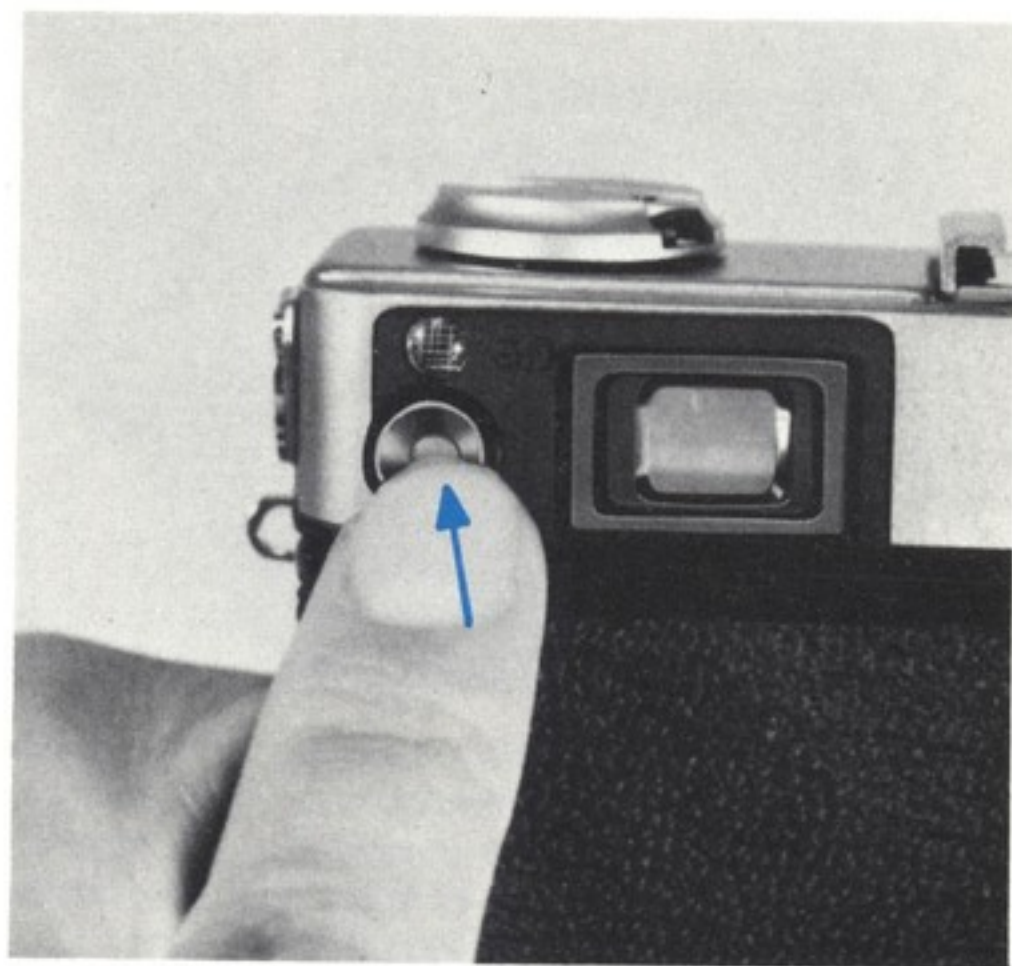




## 6 フィルム駒数計を1にします。

フィルムを巻上げてリリースボタンを押す——この空写し操作を2～3回行い、さらに1回巻上げますと、フィルム駒数計は1になります。ここから撮影に入れます。

なお空写しの途中で巻戻しノブが巻上につれて回ります。これはフィルムが正しく送られている証拠です。

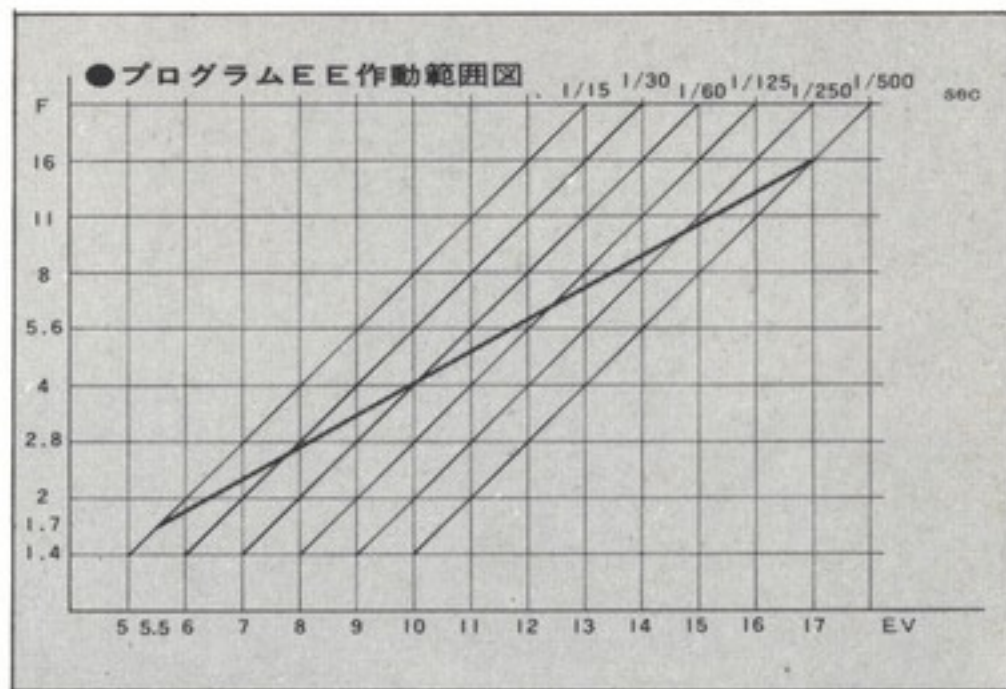


レンズキャップをかぶせたままや暗いところでは、リリースボタンが押せず空写しができません。そのときはファインダー左横にある赤のロックフリーボタン(バッテリーチェッカーボタン兼用)を押しながら、リリースボタンを押せばシャッターが切れます。

## ●フィルム感度セット環



フィルム感度を正しくセットすることが、35DC(バッテリーチェッカー付)では適正露出を得るための唯一の条件です。距離環を至近距離(0.85m)にセットして、鏡胴前側にあるフィルム感度セット環を回し、フィルム感度セット窓に使用するフィルムの感度ができるようにしてください。フィルム感度を合わせてやるだけで、被写体の明るさに応じて最適の絞りとシャッタースピードの組合せをカメラが自動的に選んでくれるプログラム式完全EEを採用してありますから、露出はあとすべてカメラまかせになります。



※自動露出の絞りとシャッタースピードの組合せは、上図のようにプログラムされており、EV 5.5 (F 1.7・ $\frac{1}{15}$ 秒) から EV 17 (F 16・ $\frac{1}{500}$ 秒) まで広範囲に働きます。

※フィルム感度は、中間の目盛は使えません。必ずクリックで止まった状態でお使いください。

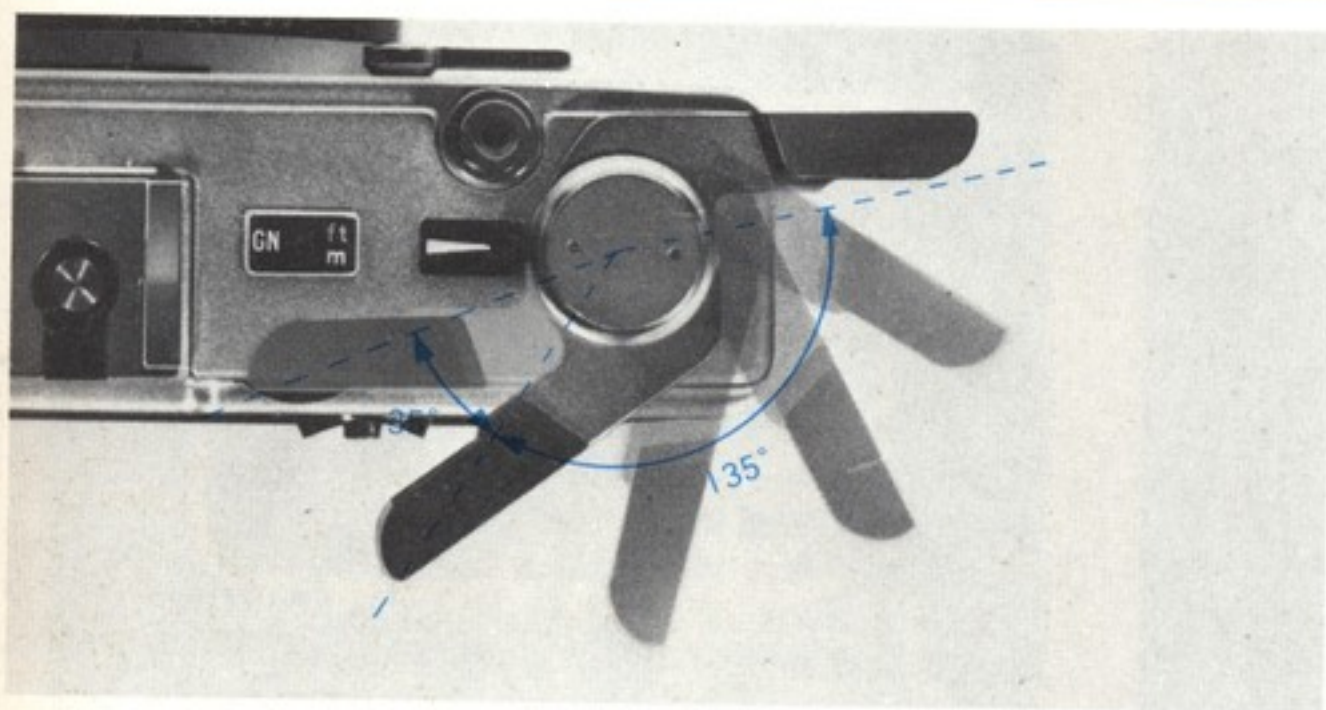
※ASAおよびDINは、どちらもフィルムが光に感じる度合を示す単位です。フィルム感度の数値を大きくするにつれて、CdS受光部の穴が大きくなりCdSへ入る光の量が調節されます。

ASA	25	32	50	64	80	100	125	160	200	250	400	500	800
DIN	15	16	18	19	20	21	22	23	24	25	27	28	30

※ASA40 (DIN17) のフィルムを使用する場合にはASA32 (DIN16) のところで使用してください。

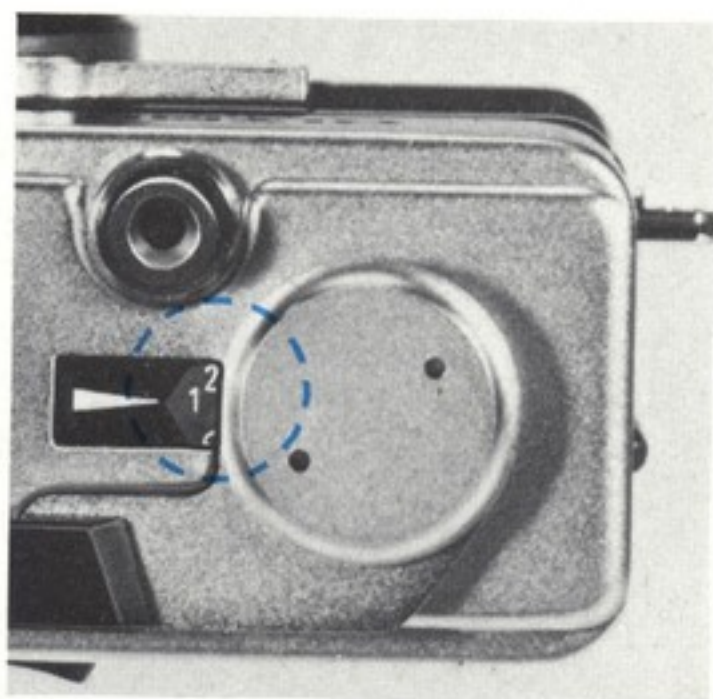


## ● フィルム巻上レバー



1. フィルム巻上レバーを軽く引出します。(予備引出角 $35^\circ$ )撮影するときは、巻上レバーをこの状態まで引出しておくこと、次の巻上がやりやすくなります。
  2. ここから巻上レバーが止まるまで回すと、フィルムが1駒分巻上げられ、シャッターがセットされます。(巻上角 $135^\circ$ )  
巻上操作は何回もの小さきみに分けてできて、使い易いようになっています。
  3. レリーズボタンを静かに押します。シャッターが切れて再び巻上ができます。
- ※二重露出防止になっていますから、フィルムが完全に巻上げられていないと、レリーズボタンは押せません。
- ※なお巻上の際巻戻しノブに指を掛けているとフィルムが確実に送られませんのでご注意ください。

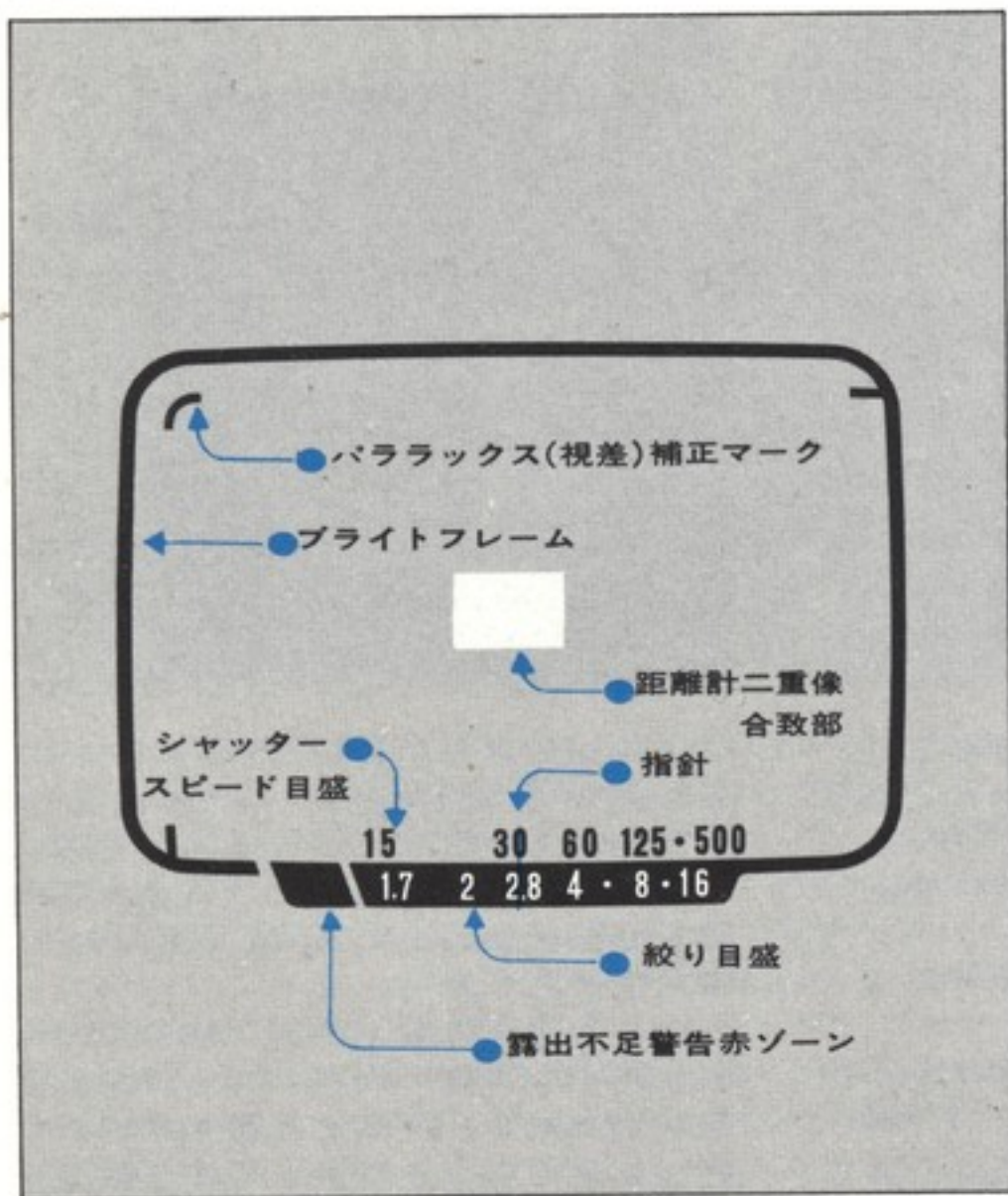
## ● フィルム駒数計



フィルム駒数計には、S(スタート)から36までの数字がS 1 2・4・6と以下偶数で表示されています。このうち市販パトローネ入りフィルムの指定撮影枚数にあたる12、20、36は黄色です。

フィルムを巻上げると、1駒分ずつ動きオレンジ色の矢印の先に撮影枚数が示されます。指定枚数の撮影が終ってフィルムを巻戻してから裏蓋をあけますと、フィルム駒数計は自動的にSの位置に戻ります。

## ● ファインダー



### ● シャッタースピードおよび絞り目盛

レリーズボタンを静かに押していくと、指針があらわれシャッタースピードと絞りの組合せを知ることができます。普通のEE撮影はもちろん、フラッシュ撮影のときも同じです。(プログラム図は15頁参照)

シャッタースピードが $\frac{1}{30}$ 秒以下のスローになることがわかったときは、カメラブレには十分気をつけて操作してください。また当然動きの速い被写体は避けるようにします。

### ● 露出不足時警告赤ゾーン

被写体が暗すぎる場合は、指針がこの赤ゾーンに入ってしまいます。レリーズボタンを押してもロック装置がかかり、シャッターが切れません。この場合はアクセサリシューにフラッシュ装置を取付けて、フラッシュ撮影をしてください。

(23頁参照)

### ● ブライトフレーム

- パララックス(視差)補正マーク
- 距離計二重像合致部

→次頁参照



## ●構図とピント



### ●構図の決めかた

ファインダーをのぞいてみると、その周囲に明るい光の枠がみえます。これをブライトフレームといい、この内側に入るものが実際に写ります。撮影のときは、このブライトフレーム内いっぱいに入るようにして構図を決めてください。

なお1m以内の近距離撮影のときは、ブライトフレームの内側にあるパララックス(視差)補正マークがかこむ範囲に、写したいものが入るようにします。



### ●ピントの合わせかた

ファインダー中央の明るい長方形の部分(距離計二重像合致部)でピントを合わせます。ファインダーをのぞきながら、写したい被写体を中央にもってきて距離環を回すと、この部分の二重像がピッタリと合致してハッキリみえるようになります。このときがピントの合ったときです。

※距離目盛はm(メートル・白色)とft(フィート・オレンジ色)の両方で刻まれ、中央指標に合ったところが、被写体までの距離を表わしています。

一般のスナップ撮影では、大体のものがピントの合う赤い字の3mにセットしておくくと便利です。

## ● カメラの構えかた

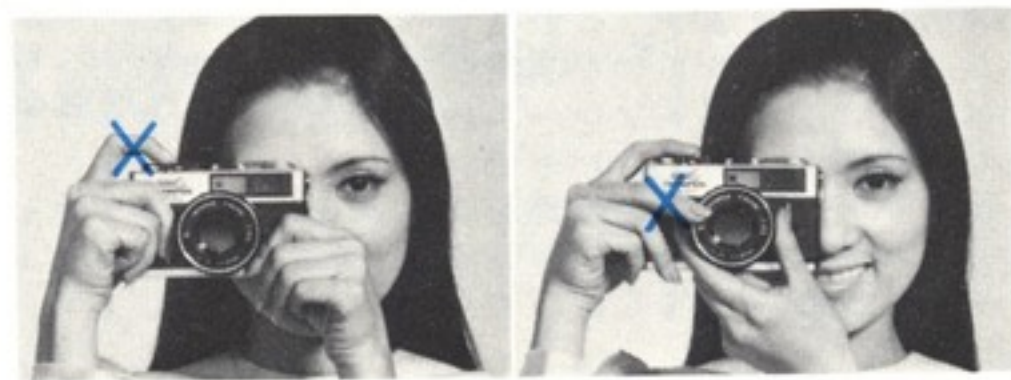


美しい写真を撮るには、カメラをしっかり構えなければなりません。ピントの悪い写真の多くは、カメラブレが原因です。カメラに慣れるまでは、フィルムを入れないで何回も練習してみてください。

レリーズボタンは、指を立てずに指の腹で静かに押します。シャッターを切るときは、一瞬息を止めるようにするのがコツです。そのとき指やケースなどが、レンズやCdS受光部にかからないように注意してください。

構えかたは、構図によってタテ位置でもヨコ位置でも自由です。

- ヨコ位置に構えるときは、両腕をからだからはなさないようにします。特に左ひじをからだにしっかりつけるとカメラが安定します。
- タテ位置に構えるときは、右ひじをからだにしっかりつけて、左手でカメラをひたいに押しつけて動かないように保持します。



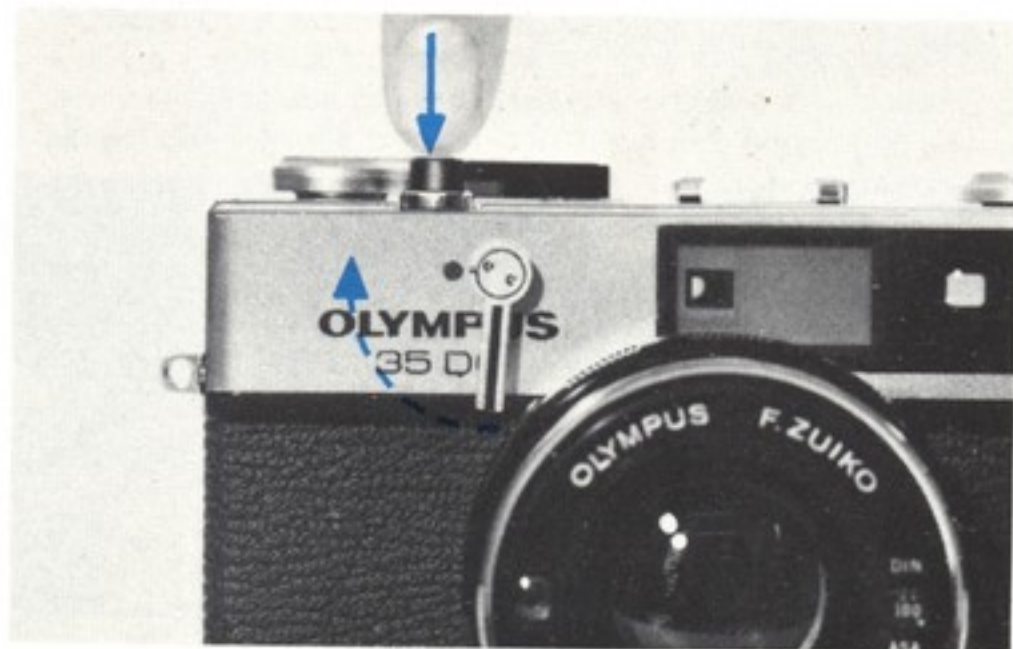
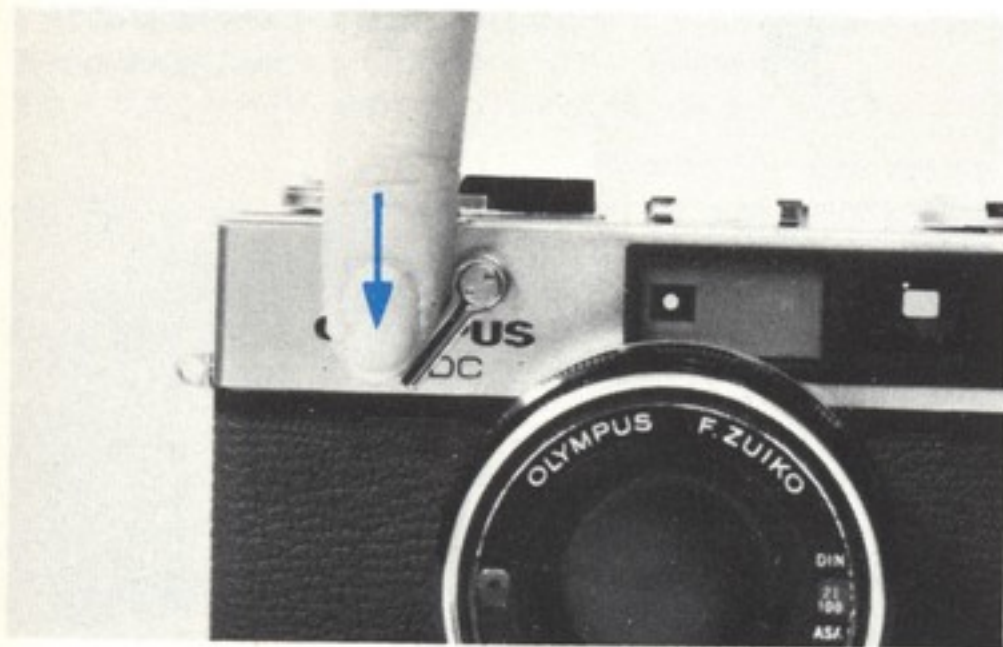


## ●セルフタイマーの使いかた

他人の手を借りずにご自分の記念撮影ができる便利なセルフタイマーが内蔵されています。グループでの撮影などにご自分も加わった楽しい思い出がたくさん残せます。

- 1.セルフタイマーレバーを写真のように下に90°倒し赤指標が合うようにするとセットされます。
- 2.フィルムが確実に巻上げてあるかどうかを確認します。
- 3.レリーズボタンを押すとセルフタイマーが作動し約10秒後にシャッターが切れます。

- セルフタイマーレバーのセットは、フィルム巻上の前後いずれでも構いません。
- フィルムが確実に巻上げられていなかったり、露出不足時での撮影では、レリーズボタンが押せずセルフタイマーを作動させることはできません。
- フィルムがまったく巻上げられていないときは、セルフタイマーだけが作動し“クラブリ”になりますのでご注意ください。



## ●フラッシュ撮影のしかた

室内や暗い所での撮影には、フラッシュバルブやストロボを使ってフラッシュ撮影をしてください。オリンパス35DC(バッテリーチェッカー付)のアクセサリシューはコードレス接点付ですので、超小型フラッシュCLやオリンパスPS200クイックなどがコードなしで使えて大変便利です。

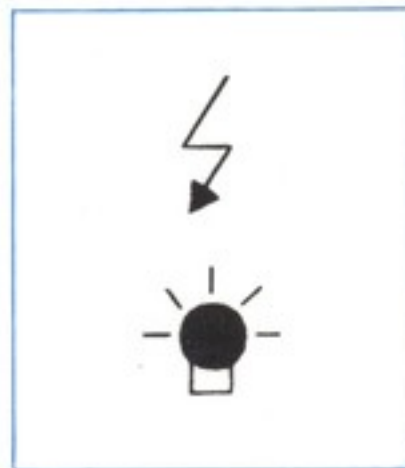
またフラッシュマチックシステムを採用してあるため、面倒な露出計算がいらす簡単にフラッシュ撮影が楽しめます。

なおフラッシュガンやストロボに取付足のないものは同調しませんのでご注意ください。

(アクセサリシューに差込むことによりフラッシュ撮影に切換わるからです。)

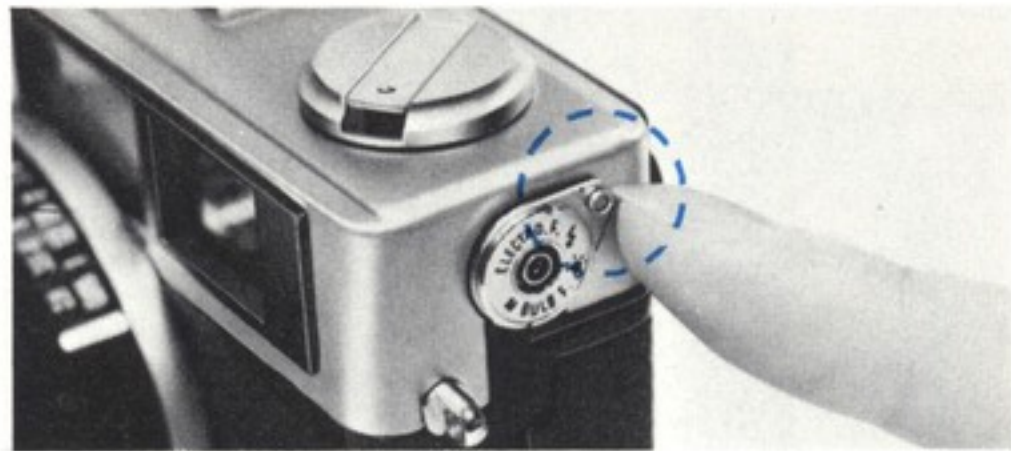
1 シンクロ接点を決めます。

カメラ側面のシンクロソケットには、接点切換レバーが付いています。レバーを動かし、ストロボを使うときは⚡マークに、M級バルブを使うときは💡に赤指標を合わせてください。



ELECTRO·F· →ストロボ用

M BULB·F· →M級および  
MF級バルブ用





## 2 ガイドナンバーを合わせます。

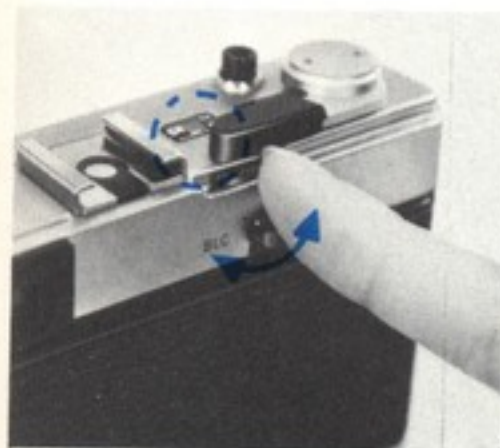
使用するストロボやフラッシュバルブおよびフィルムの種類によって決定したガイドナンバーを、ガイドナンバーノブを爪で動かしてカメラ上面のガイドナンバー窓にできるようにします。

あとは被写体にピントを合わせれば、その撮影距離に応じて自動的に適正なフラッシュ絞りが決まります。

※フラッシュバルブの場合は、1/30秒で指定されたガイドナンバーをセットしてください。フラッシュCLならASA100で、AG-3Bのときは、このカメラの場合特にGN20に合わせた方が好結果が得られます。

※あらかじめ使用するフラッシュ装置が決まっているときには、フィルムを入れたときに合わせておくとう便利です。

※ガイドナンバーは必ずクリックの位置で使ってください。



●フラッシュマチック連動範囲図

距離		10	5	3	2	1.5	1	0.85
GN	m							
10	32							
14	45							
20	65							
28	90							
40	130							

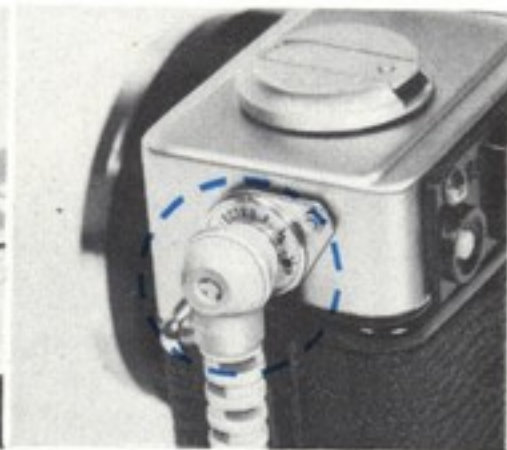
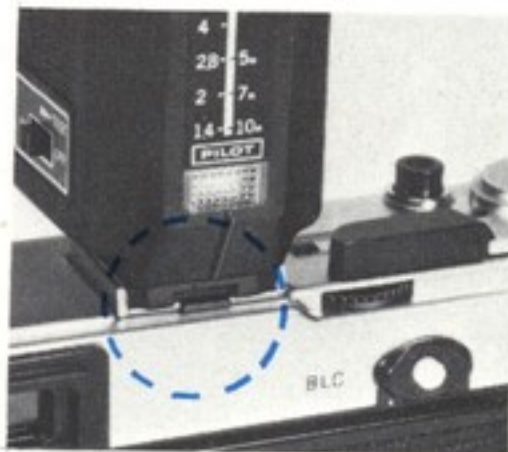
連動範囲

## 3 フラッシュ装置を取付けます。

フラッシュ装置の取付足を差し込みしっかりと固定します。次に接続プラグをシンクロソケットに差し込んでください。ただしオリンパスPS200クイックのようにダイレクトコンタクト付のフラッシュ装置は、アクセサリシューに差し込むだけで電氣的接続は完了しています。

### 〈ご注意〉

- フラッシュ装置を取付けても、フラッシュバルブをつけなかったり、ストロボをチャージさせなかったときには、カメラは発光するものとして露出してしまい適正露出になりません。
- フラッシュ装置は、撮影が終わったら必ず取外しておいてください。取付けたままにしておくと電池が消耗して早くなくなってしまうことがあります。なお数時間フラッシュ装置をつけっぱなししておく必要があるときは、距離環を∞位置に戻しておけば、電池の消耗が防げますので、このようにしてお使いください。

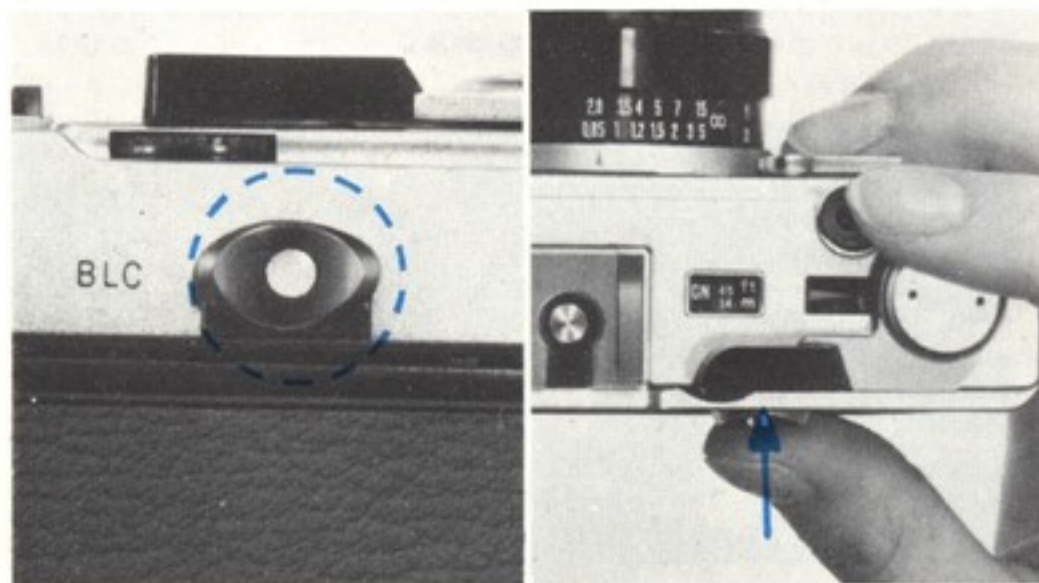


## ●特殊な条件での撮影

### ●逆光撮影——BLCボタン

カメラ背面にあるこのボタンは、被写体が暗く周囲が明るい場合に使います。BLCとは Back Light Control の略で「逆光での露出調整」の意味です。このボタンを押すことにより、1.5EV位露出がプラスされます。

逆光条件での撮影の場合、そのままEEで撮影してしまうと、右上の作例のように背景の明るさに影響されて、かんじんの被写体が露出不足になってしまいます。このようなときには、BLCボタンを押したままシャッターを切れば、右下のように露出補正されて、顔が黒くならずきれいに撮れます。





### ●日中シンクロ撮影

木陰での人物撮影などのように、昼間被写体に補助光を与え、しかも周囲の風景を適正露出で写したいときがあります。この場合35DC(バッテリーチェッカー付)は、ストロボでもバルブでも普通のフラッシュ撮影とまったく同じ操作で日中フラッシュ撮影が行えます。

この場合フラッシュ光に自然光が加味された適正露出が自動的に決まり、きれいな写真が撮れます。被写体までの距離が2 mから4 m位までが最も理想的な日中シンクロになります。

### ●被写体のみが明るく周囲が暗い場合での撮影

窓越しの風景とかシルエットの木の枝を前景に配した風景などのように、暗い場所から明るい場所を撮影するときがあります。この場合、そのままEEで撮影してしまうと、周囲の暗さに影響されてかんじんの被写体が露出過度になってしまいます。

このようなときは、フィルム感度セット環を時計方向に回し、フィルム感度を1~2段あげて合わせると良い結果が得られます。例えばASA100のときは、ASA200~400に合わせるわけです。

注意：撮影が終わったら必ず元の感度目盛に戻しておくことを忘れないで下さい。

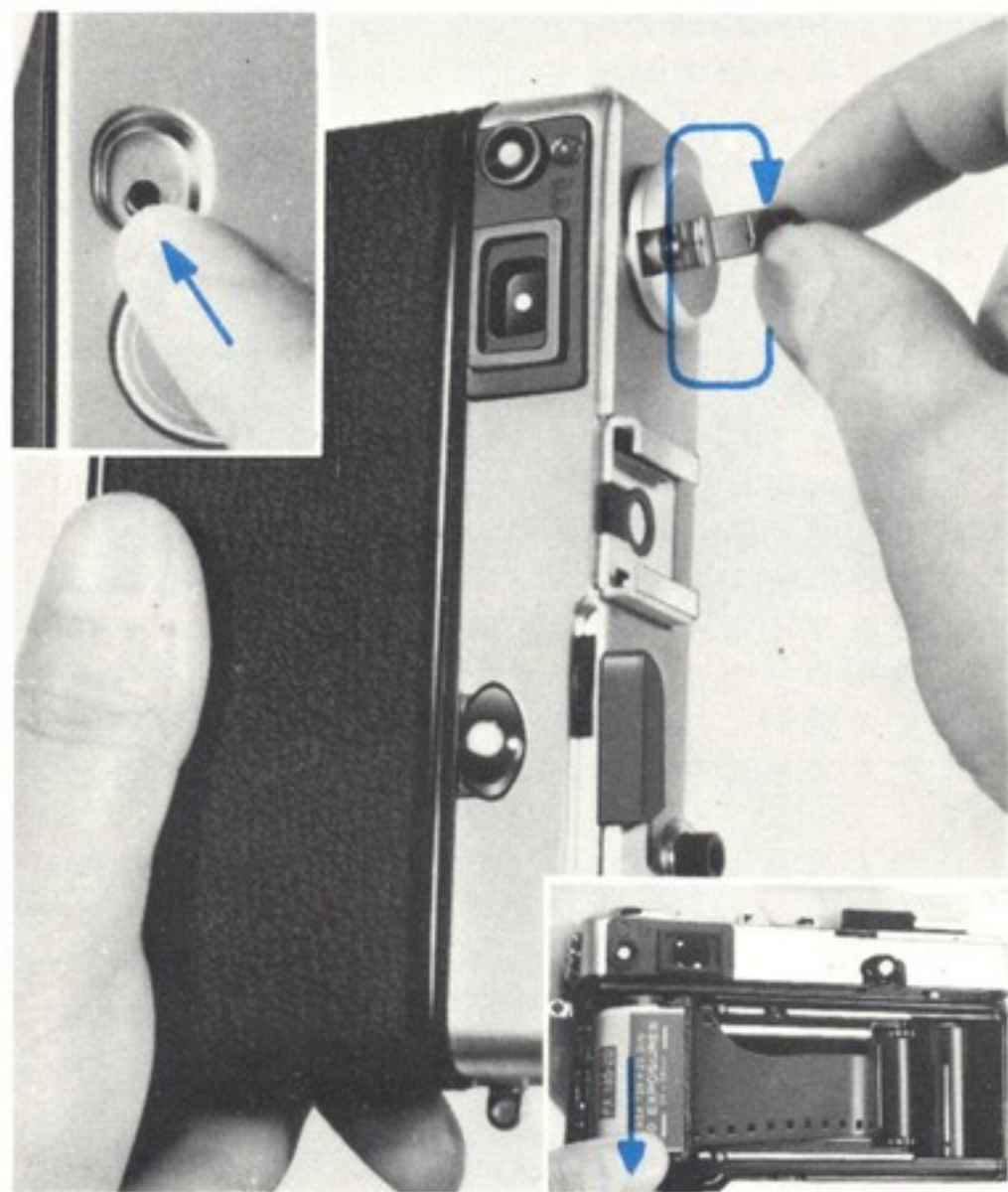


## ● フィルムの巻戻しかた

撮影が終わったらフィルムを巻戻します。撮影が終わったかどうかは、フィルム駒数計が12（12枚どりフィルム）か20（20枚どり）または36（36枚どり）になったことでわかります。

1. まずカメラ底部にある黒い色の巻戻しボタンを押込みます。一度押込めば、ボタンはそのままロックされます。
2. 次に巻戻しクランクを起こして、クランクの矢印の方向に回してください。フィルムを巻戻している間は、クランクが重く感じられますが、フィルムが巻戻されてスプールからフィルムの先端がはずれると、急に軽くなります。
3. 巻戻しが終わったら、直射日光の当たらないところで裏蓋をあけてフィルムパトローネを取出してください。ひっこんだ巻戻しボタンは、1回以上の巻上操作で元の位置に戻ります。

※なおフィルムが終りになって、巻上レバーが途中で動かなくなることがあります。そのときはフィルムが終わっていますので、無理に巻上げず、撮影を中止してフィルムを巻戻してください。フィルムが終った状態で無理に巻上げますとパーフォレーションが破れますので、指定撮影枚数を撮り終ったところで必ず巻戻すようにしてください。





## ●カメラ保管上のご注意

- カメラの大敵はホコリと湿気です。できるだけ乾燥した空気の流通のよいところに保管してください。そのときシャッターやセルフタイマーは必ず切っておきます。
- カメラは精密機械です。落したり、大きな衝撃を与えないようにしてください。また高温(50°以上)の場所に長く放置することは避けましょう。低温(-15°C以下)で使用するときは、正規の作動をしないことがありますので、カメラを暖めてから使用してください。
- カメラをラジオ・テレビ・その他強い磁石のそばには、長く置かないようにしてください。
- レンズなどの光学部分には、指をふれないように注意しましょう。もし指をふれてしまったら、すぐ清潔なノリのついていない木綿布でふいてください。そのままにしておくと、指紋などがとれなくなってしまいます。
- 海岸で撮影したあとは、カメラの表面を柔らかい布で良く拭き、塩分などがついたままにしないでください。
- カメラを使用しないときは、電池の消耗を防ぐためにキャップをしておいてください。また長期間使用しないときは、水銀電池を取りだして保管してください。
- フラッシュ装置を長期間取りつけたままにしておきますと、電池が消耗しますので必ずはずして保管してください。
- カメラの具合が悪い場合は、すぐ最寄りのオリンパスサービスステーションにお持ちください。

## ● アクセサリー



### ● フィルター

オリンパス35DC（バッテリーチェッカー付）には、49mmのネジ込み式を使います。35DC（バッテリーチェッカー付）の受光部は、鏡胴の正面にありますので、フィルターの露出倍数を補正する必要はありません。またIAフィルターは、白黒フィルムを使っても、差支えないので、レンズ保護を兼ねて常用することをおすすめします。

### ■ フィルターの種類と性質

白黒用	U	V	有害な紫外線をカットして、鮮明な画をつくります。またレンズの保護用として、常時使用できます。
	Y	2	青空を暗くし白い雲をくっきり浮き出させるなど明暗の描写が強調され、立体感ができます。
カラー用	I	A (スカイライト)	UV同様有害な紫外線をカットし、青味がかかった画調になるのを防ぎます。またレンズ保護用としても使えます。
	81C	(曇天用)	曇天または雨天で撮影するとき用いると、青味がかかった色にならずに写ります。
	82C	(朝夕用)	朝や夕方など赤い光の多い時間に撮影するとき用いると、黄赤味がかかった色にならずに写ります。
共用	N	D 4 ×	光の量を $\frac{1}{4}$ にします。カラー・白黒フィルム共に使用出来ます。



### ● フード

レンズの画角以外から入る有害な光線を防ぎます。逆光や半逆光などの撮影の場合に必ずお使いください。携帯のときは、逆さにするとレンズの鏡胴にスッポリかぶさりますので、そのままカメラのケースに納まります。



### ● オリンパスフラッシュCL (コードレス)

AG-3Bのタイプバルブを使うコード不要の世界最小のフラッシュガンです。

※ 35DC(バッテリーチェッカー付)でAG-3Bを使う場合はASA100のときのガイドナンバーは特に20(m)に合わせてお使いください。その方が結果的によい写真ができます。





## ● オリンパス製品紹介



### ● オリンパスOM-1

「大きい、重い、音・ショックが大きい」という一眼レフの三大欠陥を取りのぞき、本格的システムカメラの分野に機動性をもたらした画期的一眼レフです。新しいファインダー交換方式、モータードライブ取付可能(下板交換調整にて使用)、ズイコー交換レンズ、クローズアップフォト、マクロフォト、フォトミクロなどの充実したシステムユニット、10万回の耐久性などの高性能を備えた本格的システムカメラです。

#### ■ おもな性能

● レンズ：オリンパスOMマウント、バヨネット交換式(回転角70°) ● シャッター：フォーカルプレーンシャッター、マウントダイヤル式、B、1~1/1000秒 ● ファインダー：ペンタプリズム式広視野ファインダー、フォーカシングスクリーン交換可能、露出計測光表示付 ● ファインダー視野率：実画面に対して97% ● ミラー：大型ミラー、ミラーアップ可能 ● 露出計：TTL開放測光式中央重点測光、ファインダー内定点合わせ式 ● 裏蓋：標準裏蓋蝶番式 ● モーター巻上：下板交換(有償)によりモータードライブ仕様にして使用、専用モーターユニット着脱式、最高連続巻上毎秒5駒 ● 大きさ：F1.8付/136×83×81mm ● 重さ：660g



### ● ズイコーパールコーダーR

Yシャツの胸ポケットに入る小型のカセット式テープレコーダーです。通勤・通学途中の語学学習に、会議・商談・講演・取材など生きた情報キャッチに開発された高性能・軽量カセットレコーダーです。語学を始めとする各種学習にソフトテープも豊富に用意されています。

● 123×67×28mmの超小型・250g ● 高性能コンデンサーマイク内蔵で確実な録音 ● 単3乾電池2本で約3時間使用可能 ● 数万回におよぶ使用テスト済 ● キュー、レビュー、早送り、巻戻しの4操作ワンタッチのシフトボタン式 ● 録音時間往復60分の超小型マイクロカセット。郵送も20円でOK!





●MIC

(小中学生用生物顕微鏡)  
小・中学生のために特別に設計された本格的顕微鏡です。倍率も300倍までありますから教課過程で充分使えます。  
●倍率：ノブの回転による4段階切替40×・75×・150×・300× ●鏡筒：固定傾斜(45°)鏡筒、ステージ上下動式焦点調節、ステージストッパー付  
●理科振興法指定・JIS規格一級品



●ST-III(実習用顕微鏡)

伝統的なスタイルの高性能顕微鏡です。操作がし易く、安定した状態で使えます。  
●倍率：70×～600×、対物レンズ(10×、40×)接眼レンズ(7×、15×) ●鏡筒：単眼固定、上下動式焦点調節、焦準ストッパー付レボルバー2個用 ●ミラー：凹平面鏡付(簡易照明装置LSK取付可能)



●HS

ST-IIIのハイクラスにあたる顕微鏡です。  
●倍率：〔I型〕28～600×、対物レンズ4・10・40×、接眼レンズ7・15×。〔II型〕70～900×、対物レンズ10・20・60×、接眼レンズ7・15×。  
●鏡筒：単眼固定鏡筒。上下動式焦点調節。粗動・微動可能。焦準ストッパー付。レボルバー3個用。 ●コンデンサー：単玉レンズ、虹彩絞り付。 ●ミラー：凹面鏡付(簡易照明装置LSK取付可能)

## 海外にお出かけの方に

万一旅行の途中で、カメラに事故が発生した場合は、各国にサービスステーションがありますからお尋ねください。リストは、東京営業所にご請求いただければ、お送りいたします。

## オリンパス光学工業株式会社

### 国内オリンパス・サービス・ステーション所在地

※日曜・祭日および土曜日は原則的に休みます。

東京	151. 東京都渋谷区幡ヶ谷2の43の2	オリンパス光学工業(株)本社内	電話(377)2111
	101. 東京都千代田区神田小川町3の7	オリンパス商事(株)東京本店内	電話(294)4411
大阪	542. 大阪市南区塩町通り3の45	オリンパス大阪センター内	電話(252)6981
名古屋	460. 名古屋市中区錦3の23の31 栄町ビル	オリンパス商事(株)名古屋支店内	電話(961)0531
福岡	810. 福岡市天神1の14の1 日本生命ビル	オリンパス商事(株)福岡支店内	電話(76)4466
札幌	060. 札幌市北3条西4丁目 日本生命ビル	オリンパス商事(株)札幌営業所内	電話(231)2320
広島	730. 広島市八丁堀16の11 日本生命第2ビル	オリンパス商事(株)広島営業所内	電話(28)3821
仙台	980. 仙台市中央1の2の3 駅前第1ビル	オリンパス商事(株)仙台営業所内	電話(25)6821
金沢	920. 金沢市尾山町3の25 住友生命金沢ビル	オリンパス商事(株)金沢営業所内	電話(62)8257
横浜	220. 横浜市西区北幸1の7の2 横浜駅西口ビル	オリンパス商事(株)横浜営業所内	電話(311)2041
新潟	950. 新潟市東大通り1の4の1 マルタケビル	オリンパス商事(株)新潟営業所内	電話(45)7337
静岡	420. 静岡市追手町1の6 日本生命ビル	オリンパス商事(株)静岡営業所内	電話(53)2135

### 海外オリンパス・サービス・ステーション所在地

U. S. A. OLYMPUS CORP. OF AMERICA, 2 Nevada Drive New Hyde Park, N. Y. 11040  
GERMANY OLYMPUS OPTICAL CO. (EUROPA) GmbH, Steindamm 105, 2 Hamburg 1

No. \_\_\_\_\_

あなたのカメラナンバーを控えておきましょう。

IJ35DCN © 0874. 8MB